



丸木位里・丸木俊「原爆の図 第4部《虹》」(部分) 1951年



戦後80年非核平和事業

第29回はつかいち平和美術展

# 丸木位里・丸木俊 夫妻 原爆の図—被爆体験の継承

2025年7月27日(日) ▶ 8月17日(日) 【会期中無休】

観覧無料

同時開催

パネル展

原爆投下後に大野陸軍病院を  
襲った巨大台風の惨禍



京都大学大学文書館所蔵

【開館時間】 10:00~18:00(入館は17:30まで)

【会場】 はつかいち美術ギャラリー 第1展示室、第2展示室、第3展示室

【主催】 (公財)廿日市市芸術文化振興事業団、廿日市市、  
廿日市市教育委員会、中国新聞社

【共催】 はつかいち平和の祭典実行委員会

【協力】 原爆の図丸木美術館、大野歴史ガイドの会

【展示構成】 岡村 幸宣(原爆の図丸木美術館 学芸員・専務理事)

## はつかいち美術ギャラリー

〒738-0023 広島県廿日市市下平良一丁目11番1号

(廿日市市役所・はつかいち文化ホールウッドワンさくらびあに併設)

TEL 0829-20-0222 FAX 0829-32-7160

検索 [はつかいち美術ギャラリー](#)



戦後80年非核平和事業

第29回 はつかいち平和美術展

# 丸木位里・丸木俊 夫妻 原爆の図—被爆体験の継承



丸木位里・丸木俊「原爆の図 第1部《幽霊》(部分) 1950年



丸木俊「原爆の図 母子像」  
1954年



丸木俊 絵本原画「ひろしまのピカ」  
1980年



丸木位里・丸木俊 木版画  
「原爆の図」1950年頃

広島出身の丸木位里(1901-1995)と、その妻の丸木俊(赤松俊子、1912-2000)の共同制作「原爆の図」は、米軍を中心とする連合国軍占領下で、原爆についての報道や写真の公開が禁じられていた時期に、いち早く原爆の被害を絵画で広く伝えたことで知られています。

「新型爆弾」投下の知らせを聞いて広島へ駆けつけた二人の画家が、その惨状を実際に目撃し、家族たちから証言を聞き、いかにして「原爆の図」を描いたのか。そしてどのように国内外の人びとに伝えていったのか本展では、貴重な被爆後の広島風景スケッチをはじめ、原爆の図のための人体デッサン、木版画作品、そして1.8×7.2mという等身大の画面に描かれた「原爆の図」の紹介に加えて、国内外を巡回した当時の展覧会のポスターや資料類、そして1980年代に「孫たちへの遺言」として刊行された絵本『ひろしまのピカ』を展示し、国境や世代を超えて原爆の記憶を伝え続けた丸木位里、丸木俊の仕事、私たちの生きる現代の世界に呼び起こします。

さらに本展では、小高文庫と呼ばれる丸木夫妻のアトリエ兼書斎から最近になって発見された新資料、峠三吉や深川宗俊、川手健らの書簡などを展示します。



丸木位里、赤松俊子宛  
峠三吉葉書  
1951年5月3日付

## 同時開催

### パネル展

## 原爆投下後に大野陸軍病院を襲った巨大台風の惨禍

原爆投下から1か月あまりの1945年(昭和20年)9月17日、焼け野原となった広島市を、「昭和の三大台風」の一つとして観測史上にも残る「枕崎台風」が襲います。台風の来襲が、復興に向けて立ち上がろうとしていた被爆直後の広島の人たちに追い打ちをかけました。

当時、佐伯郡大野町(現在の廿日市市)にあった大野陸軍病院には、原爆で負傷した多くの患者が入院し、軍から要請を受けた京都大学原爆調査班が、被爆者の調査と対策の研究のために滞在していました。台風による土石流は建物を飲み込み、入院患者や京大研究班を含む180人近くが亡くなりました。原爆を生き延びた人々と原爆被害を解明しようとした研究者たちの、多くの尊い命が失われました。

当時の様子を写真とともに大野歴史ガイドの会の協力を得て、被災者からの聞き取りなど地元を襲った惨禍を現在に伝えます。



京都大学大学文書館所蔵



交通案内

- 広電宮島線「廿日市市役所前(平良)」駅から徒歩7分
- JR山陽本線「宮内串戸」駅から徒歩15分

## はつかいち美術ギャラリー

〒738-0023 広島県廿日市市下平良一丁目11番1号  
(廿日市市役所・はつかいち文化ホールウッドワンさくらびあに併設)  
TEL 0829-20-0222 FAX 0829-32-7160

SNS配信中!  
フォロワー大募集!

